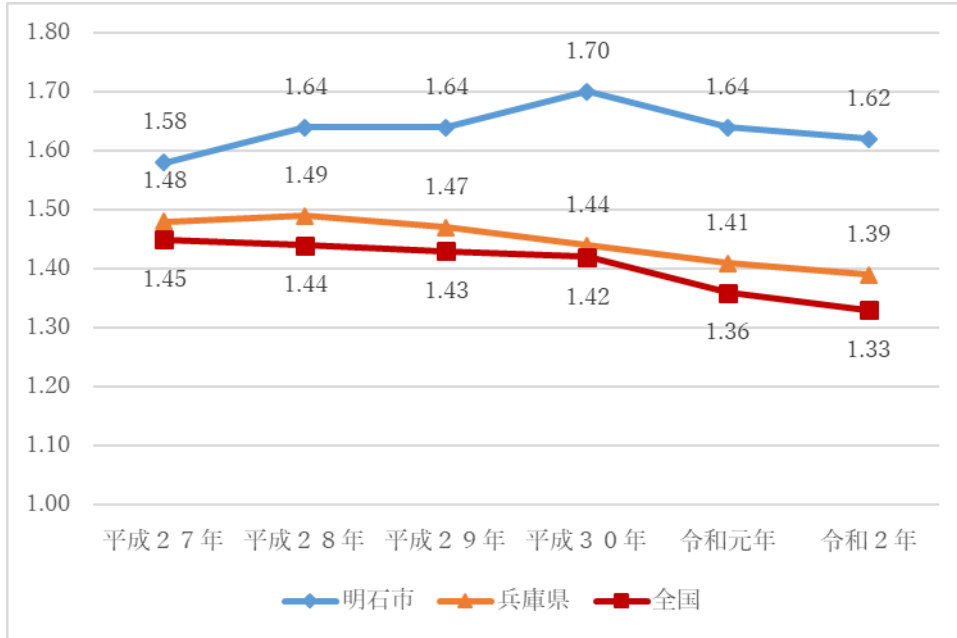


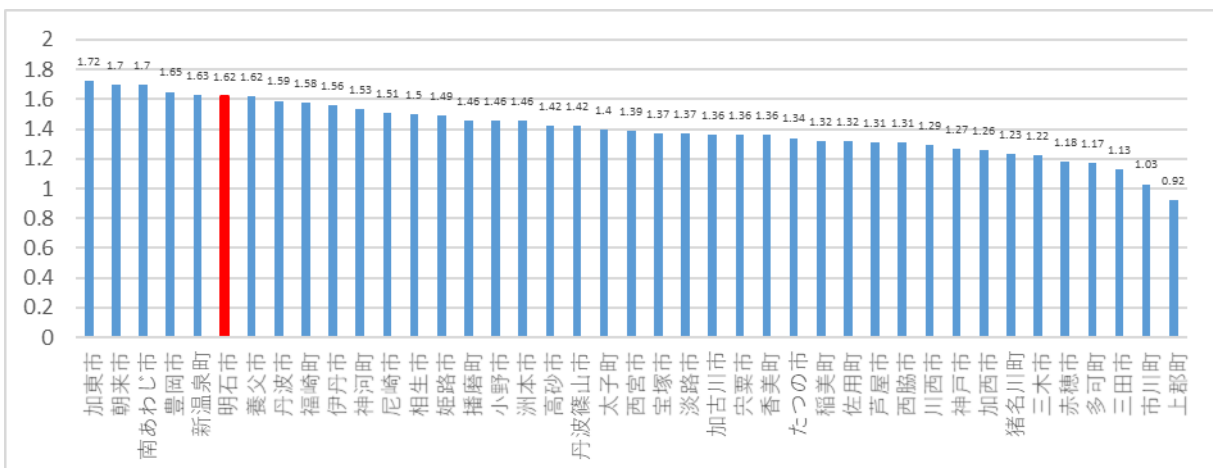
合計特殊出生率の補足（資料3_1(4)関係）

(1)平成 27 年から令和 2 年までの 1 年ごとの合計特殊出生率の比較



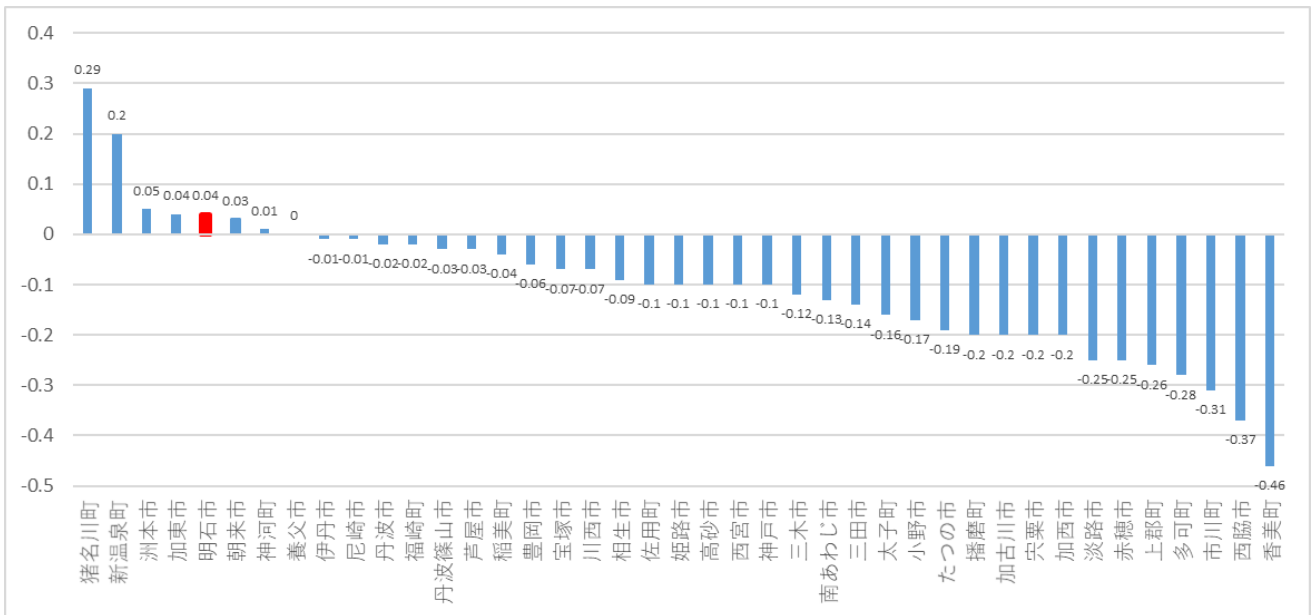
本市の合計特殊出生率は、国、兵庫県を上回って推移しています。国は平成 27 年から減少傾向にあり、兵庫県は平成 28 年をピークに減少傾向が続いています。本市は平成 30 年までは上昇傾向にありましたが、コロナ禍の影響もあり、令和元年以降、減少に転じています。

(2)兵庫県内自治体別合計特殊出生率（令和 2 年）の比較



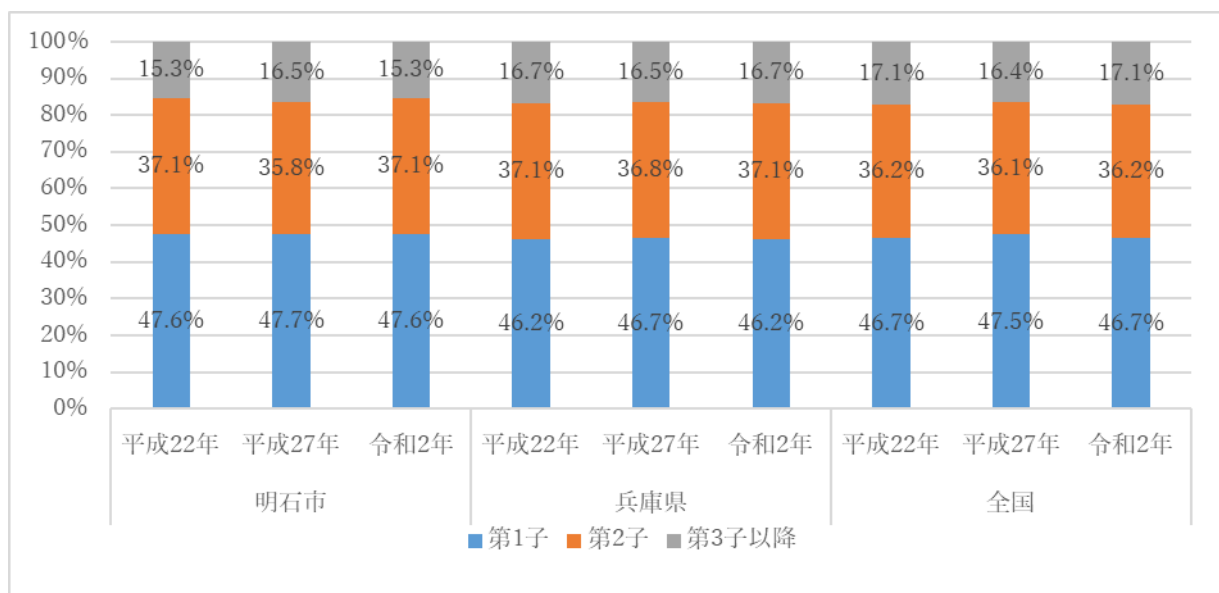
合計特殊出生率の全国平均 1.33 を上回る自治体は兵庫県内に 27 市町あります。明石市と兵庫県内の自治体と比較すると、令和 2 年において、明石市の合計特殊出生率 1.62 以上の自治体は 6 市町（加東市、朝来市、南あわじ市、豊岡市、新温泉町、養父市）あります。

(3)兵庫県内自治体別合計特殊出生率の増減（平成27年—令和2年）の比較



兵庫県内の自治体（41市町）で、平成27年と令和2年の合計特殊出生率の増減を比較すると、合計特殊出生率が増加した自治体は7市町（猪名川町、新温泉町、洲本市、加東市、明石市、朝来市、神河町）で、兵庫県内の約17%の自治体で合計特殊出生率が上昇したことになります。明石市以外の自治体は、人口5万人未満の自治体でした。

(4)世帯におけるこどもの人数の比較



世帯におけるこどもの人数について比較したところ、明石市と、全国、兵庫県では目立った違いは見られず、当市において第2子、第3子が多いというデータは得られませんでした。